

編集後記 口の中の「斧」



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



梅雨に入ったはずが、あまり雨が降らずに猛暑が続いています。子どもの頃は雨が嫌いだったはずなのに、今は雨より強い日差しの方が苦手。どんどん、わがままボディになっちゃってますね。(>_<)



「雨」の表現もいろいろありますよね。梅雨、豪雨、雷雨、大雨、鉄砲雨、通り雨、にわか雨、長雨、天気雨、狐の嫁入り、五月雨、時雨等々。実は、日本にはなんと400以上もの表現があるといわれています。英語では、雨はShower、rain、drizzle・・・ぐらいと聞きます。

それだけ日本人は、情緒や風情を大切にしているのでしょうか。

そんな日本語が外国人にとってはとっても難しいそうです。

アルファベットは26文字しかないのに対し、日本語にはひらがな、カタカナ、漢字があって、さらに漢字には音読み、訓読みの複数の読み方がある。

さらにオノマトペといわれる擬音語や擬態語もめっちゃくちゃ多い。(この文章のあちこちに散りばめてみました(・_・)-☆)

アメリカ国務省が発表している「言語習得難易度ランク」では、日本語は最も難しいとされる

別格のカテゴリー5+に位置付けられています。カテゴリー5+は日本語しかありません。(@o@)

日本語をさらに難しくしているものに敬語、つまり「丁寧語」、「尊敬語」、「謙譲語」があります。相手との関係性、その場の空気、温度で使い分ける敬語そのものが、社会的知性を育む精微なシステムになっているという説があります。



仏教の古い経典に「人は口の中に『斧』を持って生まれてくる」とあります。

お釈迦さまは、言葉は人を傷つける凶器にもなるということを戒めとして最初に弟子に伝えていたのです。

そして言葉は、口の中の斧として、相手だけではなく時に自分をも内側から傷つける。

米は買いません

雑に扱うと、前農林大臣のように自分をも追い込むことになるということでしょう。(-_-)

もしかすると、日本語は、先人の使い手たちが、自分の口の中の「斧」に悩み苦しみ、長い歴史の中で失敗と反省を繰り返してできたその場の空気づくりなのかもしれません。風情や情緒だけでなく、その場の雰囲気や気持ちを大切に作る日本人だからこそ、繊細で複雑な「日本語」が生まれたのではないのでしょうか。きっと敬語はその最たるもの。日本の文化が日本語を生み、日本語が日本の文化を育んだように感じています。(・o・)/



関西3空港運営の「関西エアポート」が今月17日に発表した、2025年3月期の決算によると、

国際線の旅客数が過去最高を更新したとのこと。日本に來たいと思ってくれている人が増えていると

いうことはとても嬉しいこと。日本の文化への興味や、震災の時の非常事態であっても

規律が乱れることがなかった治安の良さを評価してくれてのことでしょうか。

そして観光客だけではなく、日本で働く外国人労働者も益々増えています。



表紙の写真「律宗」総本山の唐招提寺は、奈良時代に唐から日本に渡ってきた鑑真和上のお寺。

中国随一の高僧とまで謳われていた鑑真が、命を賭して日本に来てまで伝えたのは「戒律」です。

自分自身に誓うものを「戒」、集団の規則が「律」。これもまた「斧」の制御に欠かせないものです。

「戒」と「律」も日本人の性格とあいまって、日本文化に深く溶け込み道徳心を培ったのではないのでしょうか。



その「戒律」は、会社なら就業規則や服務規律といえるでしょう。

厚生労働省は「人材確保等支援助成金（外国人労働者就労環境整備助成コース）」という

助成金を設けています。在籍する外国人労働者にあわせ就業規則等の多言語化を行い、

苦情・相談体制の整備を行った会社に、経費の一部が助成されるというものです。

せっかく縁あって日本に来てくれた外国人にとって、大きな障壁になるのが「日本語」。

外国人に「来てよかった」、「また来たい」、「ずっと居たい」と思われる日本でありたいものです。^^

